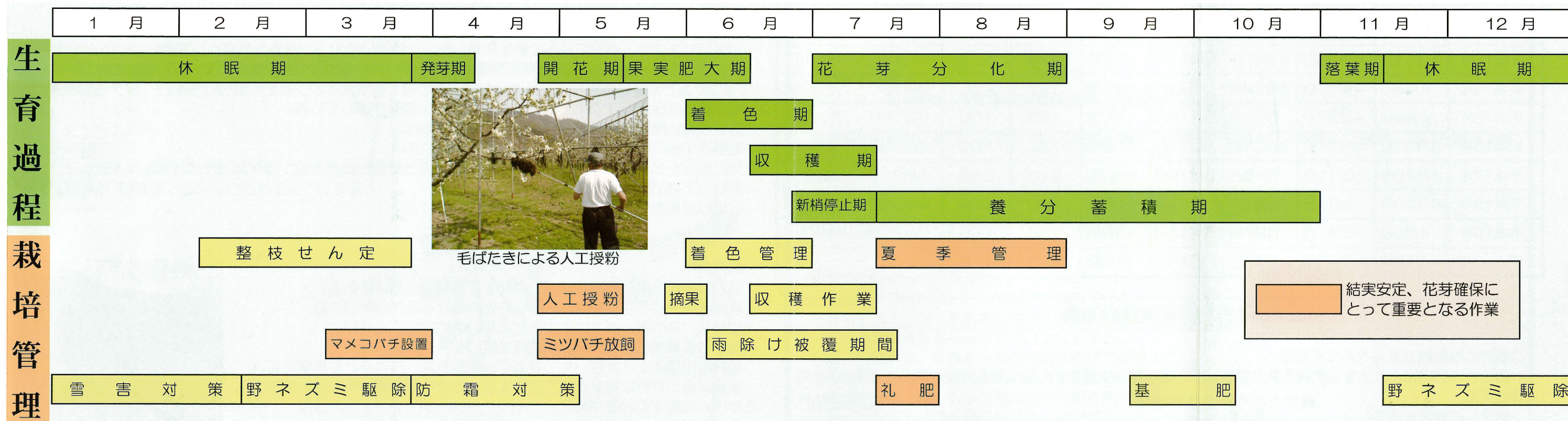


おうとう栽培暦

高品質果実の安定生産を目指して！



安定した結実のために

【人工授粉の実施】

開花時に天候不順が続いた場合、訪花昆虫の活動は低下する。このような場合、人工授粉は結実安定のために効果的で、積極的に実施する必要がある。

人工授粉はタイミングが重要で、結実率の高い開花当日から開花3～4日後までの授粉適期を逃さないようにする。

○毛ばたきによる方法

- 水鳥羽毛の毛ばたきを数本用意する（化学合成品はダメ）。
- 佐藤錦と授粉樹を交互になでるように行う（強くふれるとめしべをいためる）。
- 毛ばたきが濡れたら交換して行う。

※霜害を受け健全花が少ない場合は、徹底して行う。
※まわりに授粉樹の少ない樹はていねいに行う。
※開花期間中は、開花始めから天気の良い日は逃さず、**こまめに人工授粉を実施する。**

【訪花昆虫の導入】

おうとうの結実安定のために、人工授粉に加え、マメコバチ及びミツバチなどの訪花昆虫を積極的に導入する必要がある。

種 類	活 動 限 界	活 動 範 囲
ミツバチ	・最低活動気温は16℃以上 ・風速7m以上で活動が衰える	約2km
マメコバチ	・最低活動気温は14℃以上 ・ミツバチより風に強い	有効距離40m前後

※風当たりの強い園では訪花昆虫の活動が鈍くなるので、ハチの活動の妨げにならないよう工夫しながら防風網を設置する。
※ミツバチ放飼前の除草剤使用は控える。
※マメコバチが鳥に加害されないように、巣は防鳥網などで保護する。

○マメコバチでのコナダニ類対策

コナダニに寄生されている巣が多く見られる。

順次、巣材を新しいものと取替え、少なくとも3年に1回は巣材の更新を行う。

3年以上使用した古い巣は、3月頃に解体して健全なまゆを取り出した後焼却する。



適正な樹勢の維持・・・充実した花芽の確保のため

